

令和5年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

生活者に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	株式会社インターカルト日本語学校
事業名	生活者のための研修プログラム普及事業
研修実施地域	全国・海外(中国・韓国)
事業実施期間	令和5年4月～令和6年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者95名中、研修修了者82名

研修報告の構成

- 事業全体の概要
- 各研修の概要
- 受講生からの評価
- 成果と課題

■ 事業概要

事業の目的

日本語を母語としない生活者としての外国人が、言語・文化の相互尊重を前提としながら日本語で意思疎通を図り、自立した社会の一員となるために必要な日本語教育の基盤を担う、専門性を有する「日本語教師初任者の研修プログラム」を全国に普及することを目的とする。

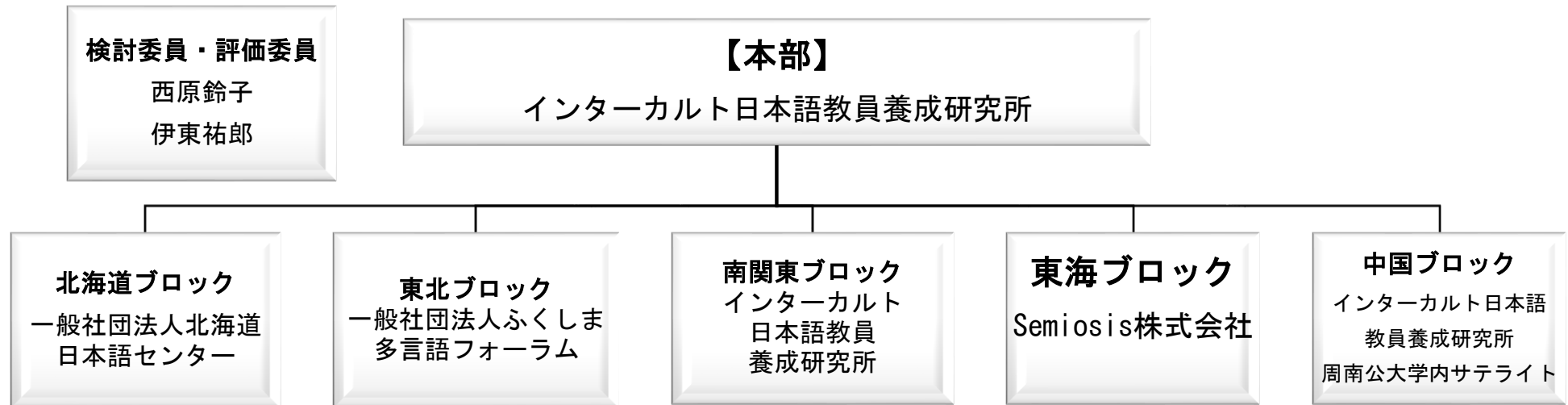
■ 事業概要

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任研修プログラム全体の構成

研修プログラムの実施	その他関連の取り組み	
【取組の名称】 「生活者としての外国人」に対する日本語教師 【初任】研修 人材育成プログラム *インターカルト日本語教員養成研究所主催 ★90単位 ★全17回 ★ZOOMによるオンライン研修 ・生活者に関する日本語教育 ・地域のICT ・多文化共生 ・地域日本語教育 1 ・地域の事例研究 ・地域日本語教育 2 ～活動案の作成～	【取組の名称】 地域の日本語教室における デジタルツール活用人材育成研修 *東海ブロック主催 ★対面1日+オンライン2日 の研修 【会場】 札幌・仙台・東京・大阪・福岡 地域の日本語学習支援の活動方法の可能性を広げ、地域日本語教育にDX人材を育成することを目的とした研修。	【取組の名称】 「それぞれの立場から地域の日本語教育を考えよう」 *中国ブロック主催 ★ZOOMによるオンライン研修 地方での「生活者としての外国人」に対する支援における課題には、都市部と比べ、地方には、生活者としての外国人が散在していること、また多様なニーズに耐えうるリソースも限られているといった問題がある。その問題に対して、背景の異なる参加者が共に課題について話し合うことで、新たな視点を生み出すことを目的とした研修。

■ 事業概要

事業全体の体制



委員会

研修プログラム検討委員会

事業評価委員会

業務チーム

研修運営チーム

事務管理チーム

■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修の目的、ねらい、研修の特徴

- ✓ 「講義」は、地域の日本語教育において知見を有する講師陣から、基本的な知識と共に、「生活者としての外国人」のおかれている現状と取組み、「生活者としての外国人」に対する教師として必要な知識、技能、姿勢を学ぶ。
- ✓ コロナが続く中でも継続的に生活支援、学習支援をするためのオンラインを使っの多様な学びの方法について知る。
- ✓ 「地域の事例研究」は、この事業を共に実施する北海道ブロック、東北ブロック、中国ブロックが主となり、それぞれの地域の課題ををそれぞれ事例として取り上げ、広く理解を促す。
- ✓ 「自力で授業が組み立てられる能力」として、「日本語教育の参照枠」及び「生活Can do」を研修の中で学び、教育実践として活用できるようになることを目指す。

■ 各 研 修 の 概 要



日本語教師【初任】研修スケジュール オンライン開催 90単位時間

生活者に関する日本語教育

日本語教育を取り巻く現状と変化	特定非営利活動法人日本語教育研究所 理事長 西原鈴子
地域の日本語教室における日本語教師の役割	国際教養大学 専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域 特任教授 伊東祐郎
「日本語教育の参照枠」と「CEFR」	京都大学名誉教授 大木充
地域での活動における「日本語教育の参照枠」	インターカルト日本語教員養成研究所所長 加藤早苗

多文化共生

多文化共生と生活者支援における日本語教師の役割 ～CINGAでの実践から～	特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA) コーディネーター 新居みどり
難民への日本語教育 ～さぼうと21での実践から～	社会福祉法人さぼうと21 学習支援室チーフコーディネーター 矢崎理恵
地域の外国人支援のための異文化コミュニケーション	信州大学教育学部教授 徳井厚子

■ 各研修の概要

地域のICT

日本語教育におけるICTの活用と日本語教師の役割

西南学院大学外国語学部 学部長 山田智久

地域日本語教育 I

「生活者」に関わる日本語教師の姿勢
～学習活動から考える～

特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA)
理事・日本語教育コーディネーター
千葉市国際交流協会 地域日本語教育の体制づくり
推進事業総括コーディネーター 萬浪絵理

子育てのための日本語
～生活Candoを取り入れた教室活動を考える～

日本語サービスYOU&I 代表
埼玉県地域日本語教育コーディネーター
埼玉県日本語教室支援協議会委員 関崎友愛

「生活者としての外国人」のための教材・教具のリソースと
著作権

凡人社 編集部編集長 渡辺唯広
凡人社 編集部主任 大橋由希

「生活Can doをベースにしたカリキュラム開発について
～(島根)の事例～」

(公財)しまね国際センター 事業推進課長
仙田武司

■ 各研修の概要

地域の事例研究

北海道の取組み 「空白地域における日本語学習支援 ～北海道内での取組みを例に～」	一般社団法人北海道日本語センター理事 大井裕子 一般社団法人北海道日本語センター理事 阿部仁美
東北の取組み 「教えない(?!)日本語教室活動」	一般社団法人ふくしま多言語フォーラム理事 幕田順子 蓬莱日本語教室 副代表 佐々木千賀子

地域日本語教育 2 ～活動案の作成～

「日本語教育の参照枠」と「生活Cando」 を取り入れた地域の実情に即した活動案を考える	東京ブロック担当
「日本語教育の参照枠」と「生活Cando」 を取り入れた地域の実情に即した活動案の発表・振り返り	
研修全体の振り返りとこれから インターカルト日本語教員養成研究所所長加藤早苗	

■ 各研修の概要

主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所
令和5年度文化庁現職日本語教師
研修プログラム普及事業

「生活者としての外国人」に対する
日本語教師【初任】研修

2023年8月26日（土）開講

全17回（8/26～1/27）全90時間（ライブ研修+課題）

zoom配信

- ✓「生活者としての外国人」の役割に関する理解と意識を学ぶ。
- ✓「生活者としての外国人」に対する日本語教師としての必要な知識、技能、姿勢を学ぶ。
- ✓「地域の事例」を学び、共に考える。
- ✓「日本語教育の専門性」について正しく理解する。
- ✓「日本語教育の専門性」及び「生活Can-do」を研修の中で学び、活動案を考える。

対象 日本語教員養成講座420時間修了または、日本語教育能力検定試験合格
生活者への活動経験が0-3年程度の方

受講料 20,000円（税込）

共催
北海道 一般社団法人 北海道日本語センター
東北 一般社団法人 ふくしま多言語フォーラム
関東 インターカルト東京立大学内サテライト
中部 インターカルト中部立大学内サテライト
近畿 インターカルト近畿立大学内サテライト
中国 インターカルト中国立大学内サテライト
四国 インターカルト四国立大学内サテライト
九州 インターカルト九州立大学内サテライト

インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所
〒110-0016 東京都千代田区千代田 3-1-1
03-5816-5019 www.incult.com
募集（締切）

募集方法 日本語教師【初任】研修

- ・インターネット上での広報
- ・日本語教育関係掲示板に掲載
- ・国際交流協会、日本語教育機関等へのメール配信
- ・各ブロックが責任を持って、関連機関等への広報活動
- ・インターカルト養成講座サテライト校へ広報活動協力依頼
- ・過去の生活者受講生への広報活動協力依頼

令和5年度
文化庁現職日本語教師研修プログラム普及事業
地域日本語教育DX人材育成推進事業

地域日本語教室における
デジタルツール活用人材育成研修

開催地
全国
5カ所

研修の概要

- 対面研修（全国5箇所で開催＆iPad 無料貸し出し）+ Zoomによるオンライン研修。
- タブレット端末やPC、ソフト、アプリの使い方、日本語支援への活かし方について学び、考えます。
- 参加費無料と初心者OK。地域の日本語学習支援に携わる方ならご参加いただけます。

参加費
無料

研修内容

1日目（対面）
iPadの基本操作と、教育支援ツール作成
アプリを使ったツール作成

2日目（オンライン）
リモートでの支援などにも使えるオンラインツールの
使い方と活用術

3日目（オンライン）
活用と実践に向けてのアイデア共有や
研修成果の共有

お問合わせ先
インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所（担当：山口）
03-5816-5019 <https://www.incult.com/>

お申込みサイトはこちら
<https://forms.gle/528WtpJ95J2X63166>

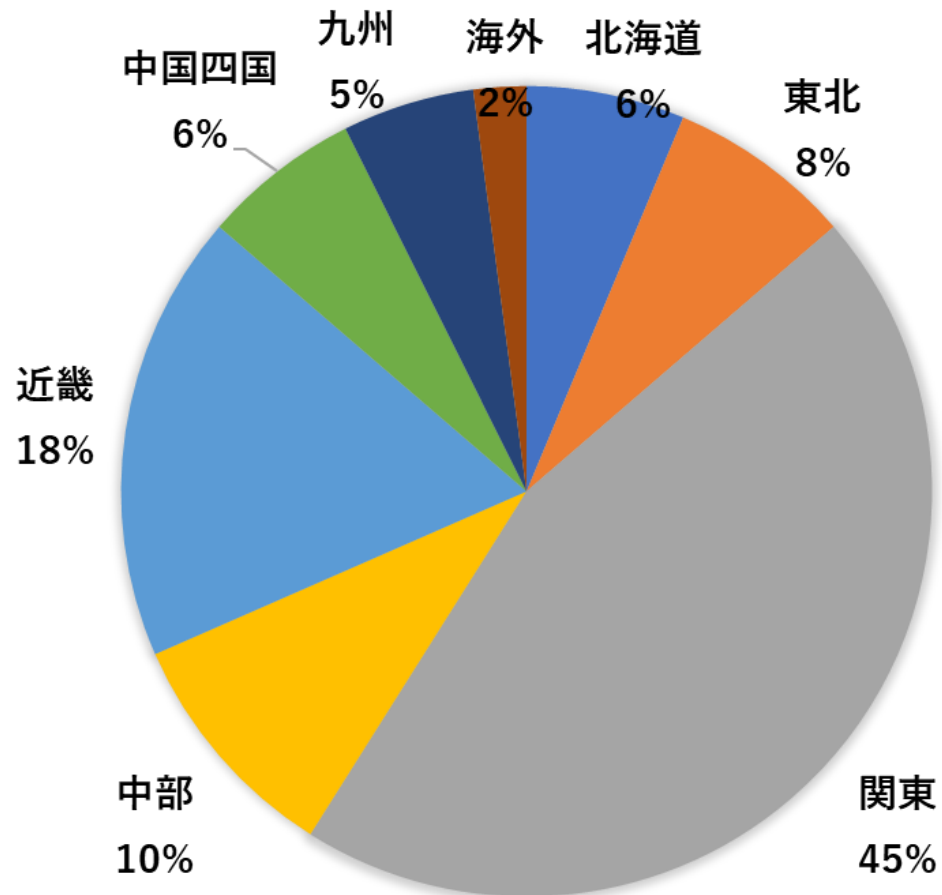
募集方法 その他の取り組み

- ・今年度受講生への告知
- ・インターネット上での広報
- ・日本語教育関係掲示板に掲載
- ・国際交流協会、日本語教育機関等へのメール配信
- ・過去の生活者受講生への告知

■ 各研修の概要

受講生の属性(95名)

居住地域



■ 各研修の概要

所属

日本語学校

専門学校

フリーランス日本語教師

国際交流協会

大学院大学

国際協力交流センター

NPO法人

まちづくり課

地域日本語ボランティアグループ

市役所職員

企業職員

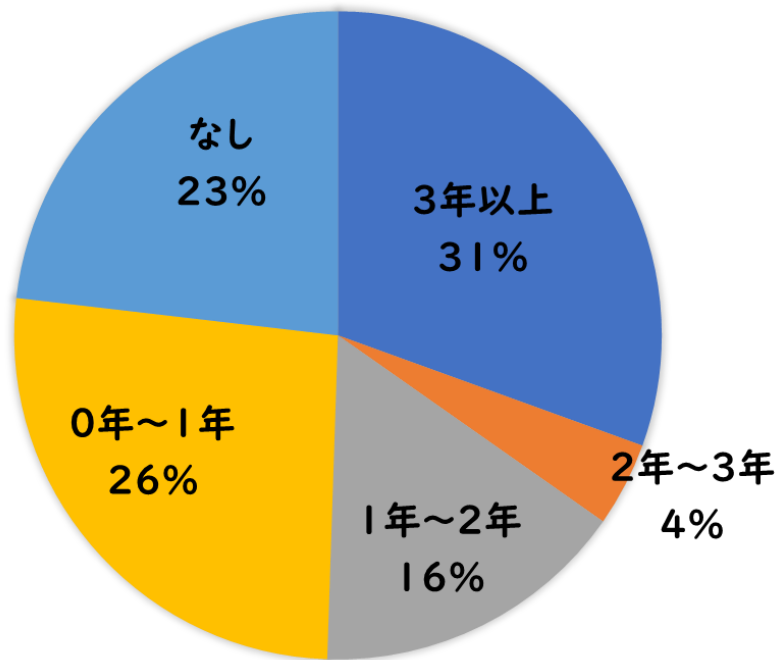
大学職員

国政交流財団

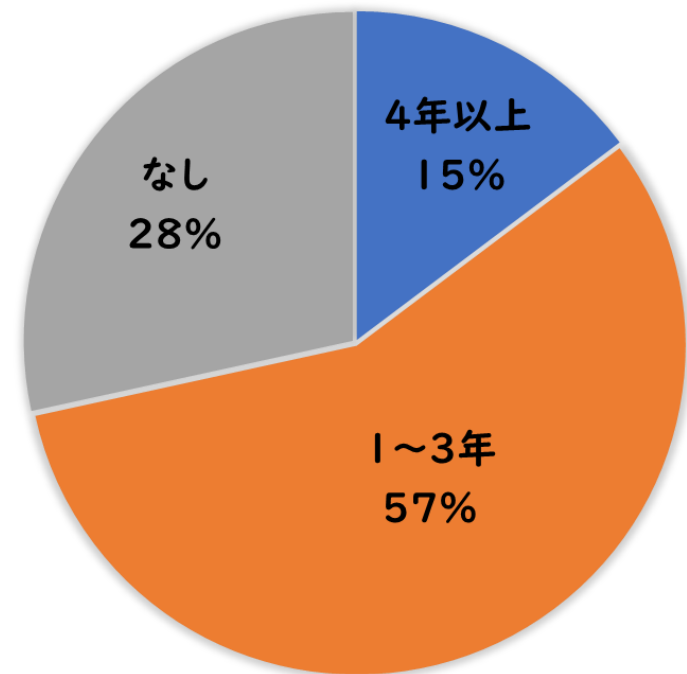
小学校・中学校講師

■ 各研修の概要

日本語教育歴

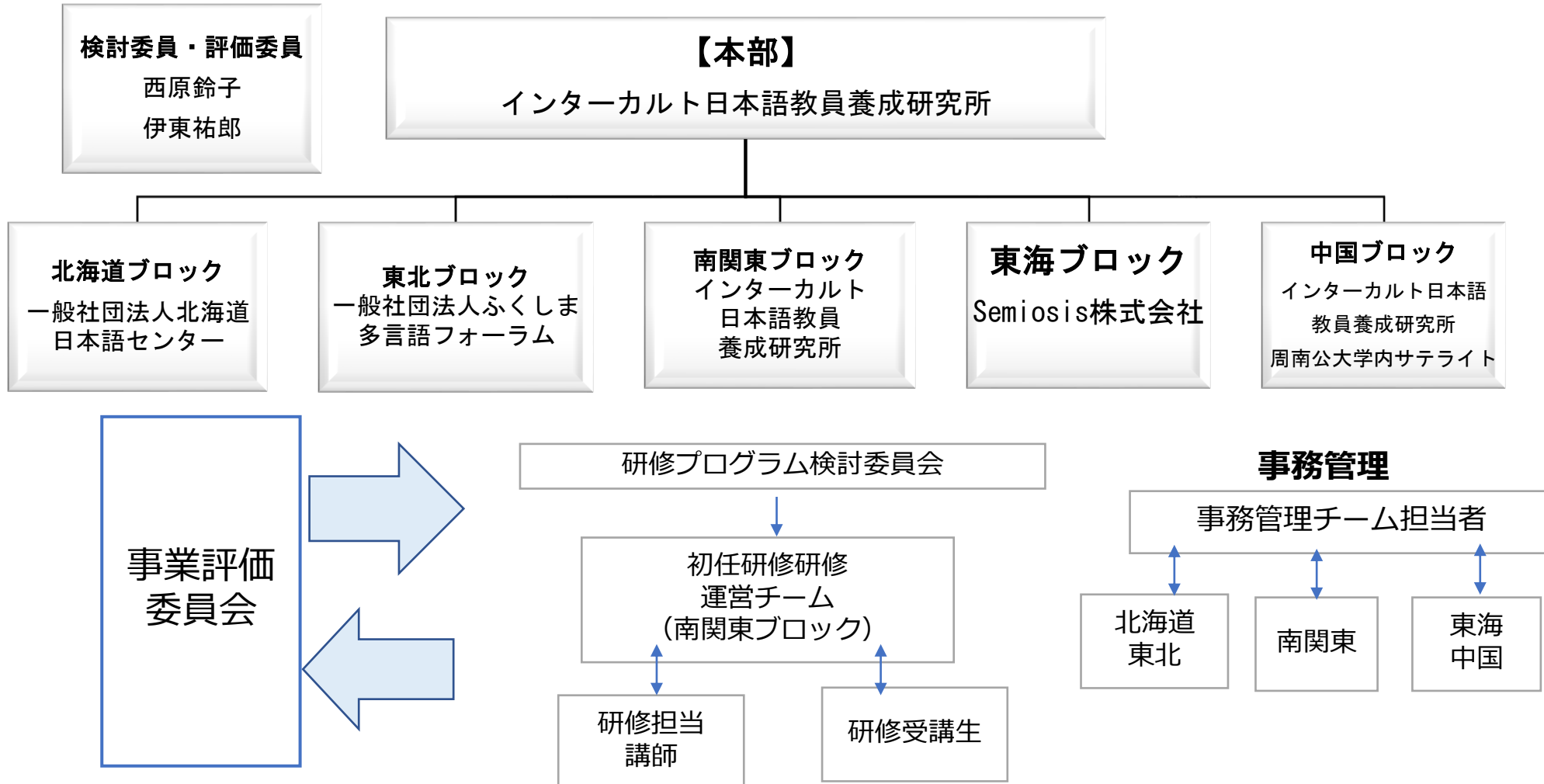


地域での教育歴



■ 各研修の概要

連携体制



■ 各研修の概要

研修修了者数・修了要件

👑 82名修了/95名受講

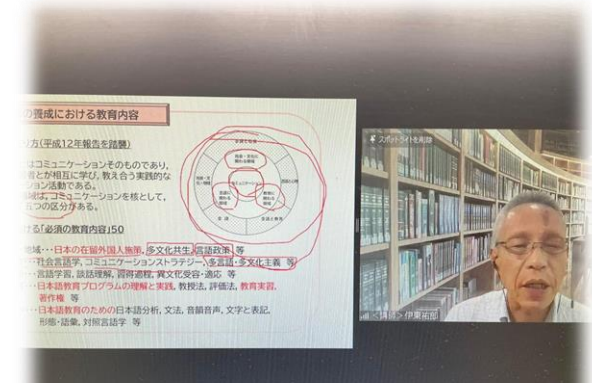
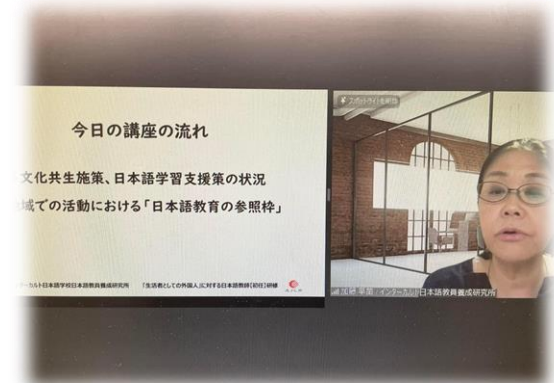
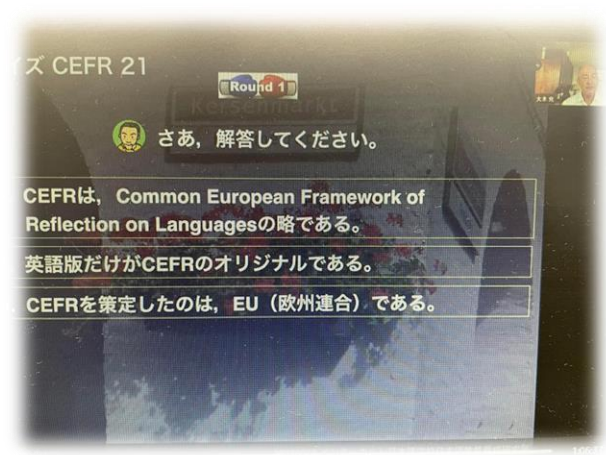
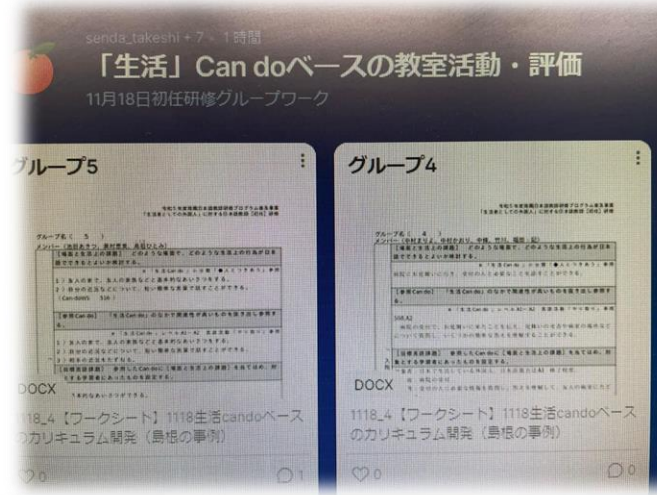
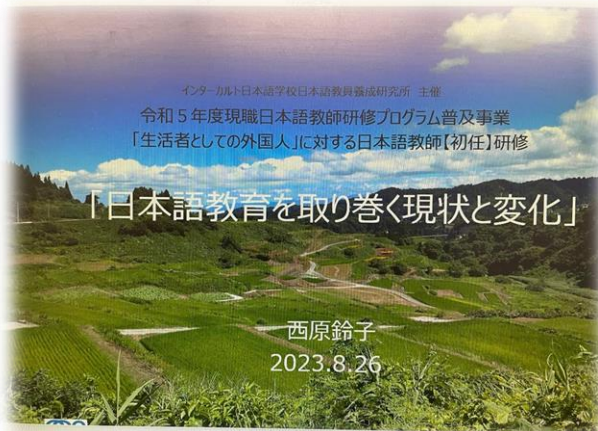


- ・有資格者であること（養成講座420時間修了または日本語教育能力検定試験合格、大学で日本語教育の主専攻副専攻で学んでいる）
- ・出席率が90%以上であること（または録画視聴）と毎回の振り返りアンケートの提出（録画の視聴をしてアンケートを提出すれば出席となる）
- ・課題の評価課題を全て提出、かつ課題の評価が70点以上であること。

上記の要件を満たした方には修了とみなす。

■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修の様子



■ 各研修の概要

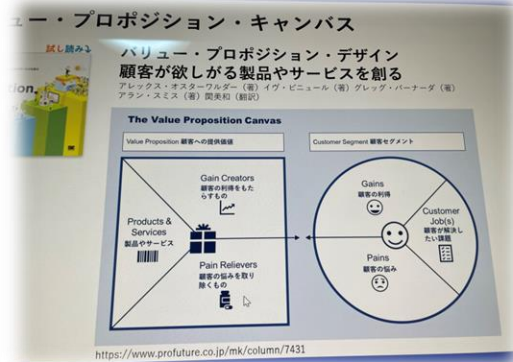
その他の取り組みの様子①地域の日本語教室におけるデジタルツール活用人材育成研修



■ 各研修の概要

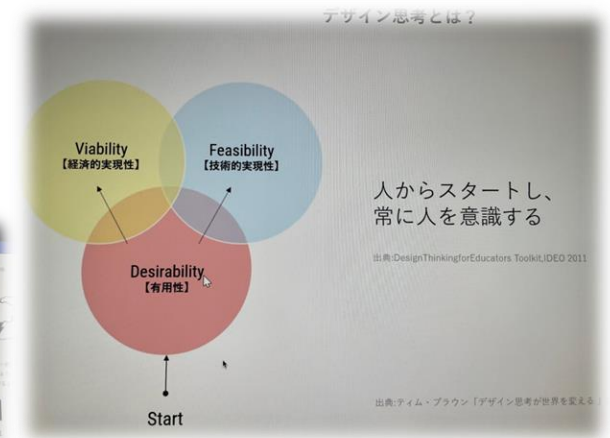
その他の取り組みの様子②

問題解決の研修「それぞれの立場から地域の日本語教育を考えよう」

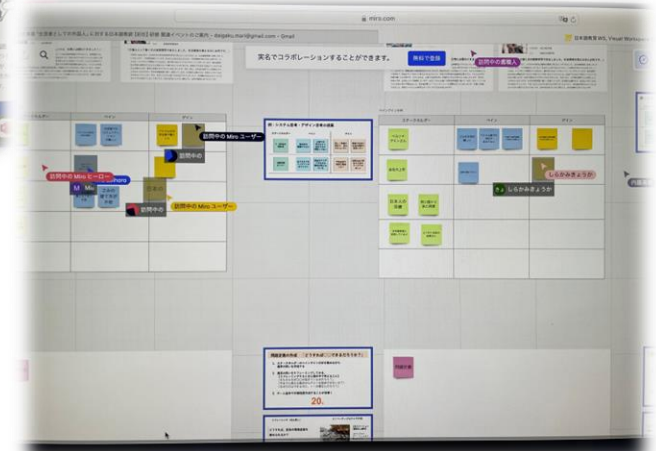
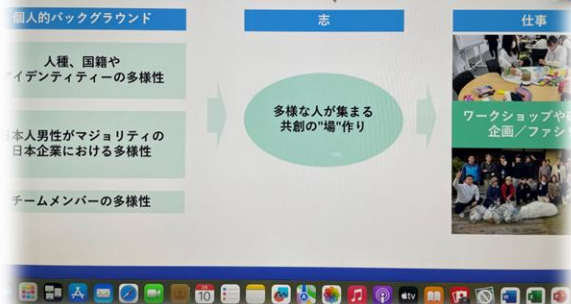


デザイン思考の7つの心構え

1. 言うのではなく見せる
2. 人々の価値観に焦点をあてる
3. 明快なビジョン
4. 素早く形にする
5. プロセスを意識する
6. 行動第一
7. 徹底的な協働



様々な人が集まる共創の「場」づくり



■ 各研修の概要

研修後のネットワーク作り

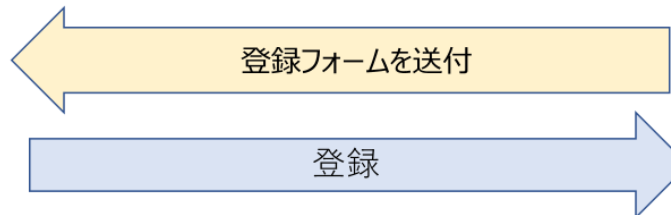
「生活者としての外国人」のための日本語教師初任研修プログラム全体の構成

参考資料2

令和5年度研修後のネットワーク作り



研修修了者
現在 約300名



インターカルト日本語学校



プラットフォーム作り

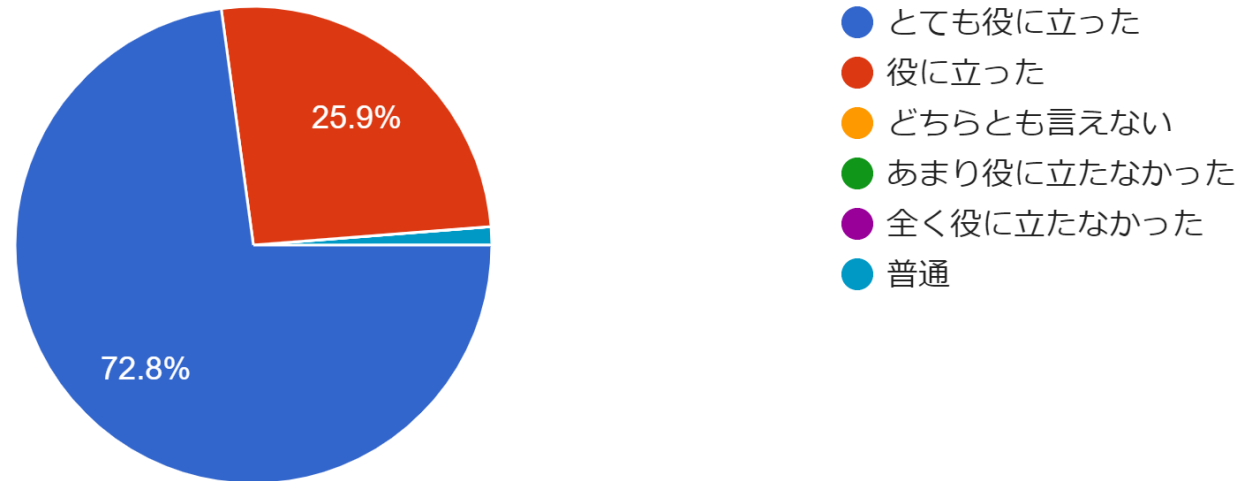


■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果①

長い研修、お疲れさまでした。17回の研修を受講していかがでしょうか。

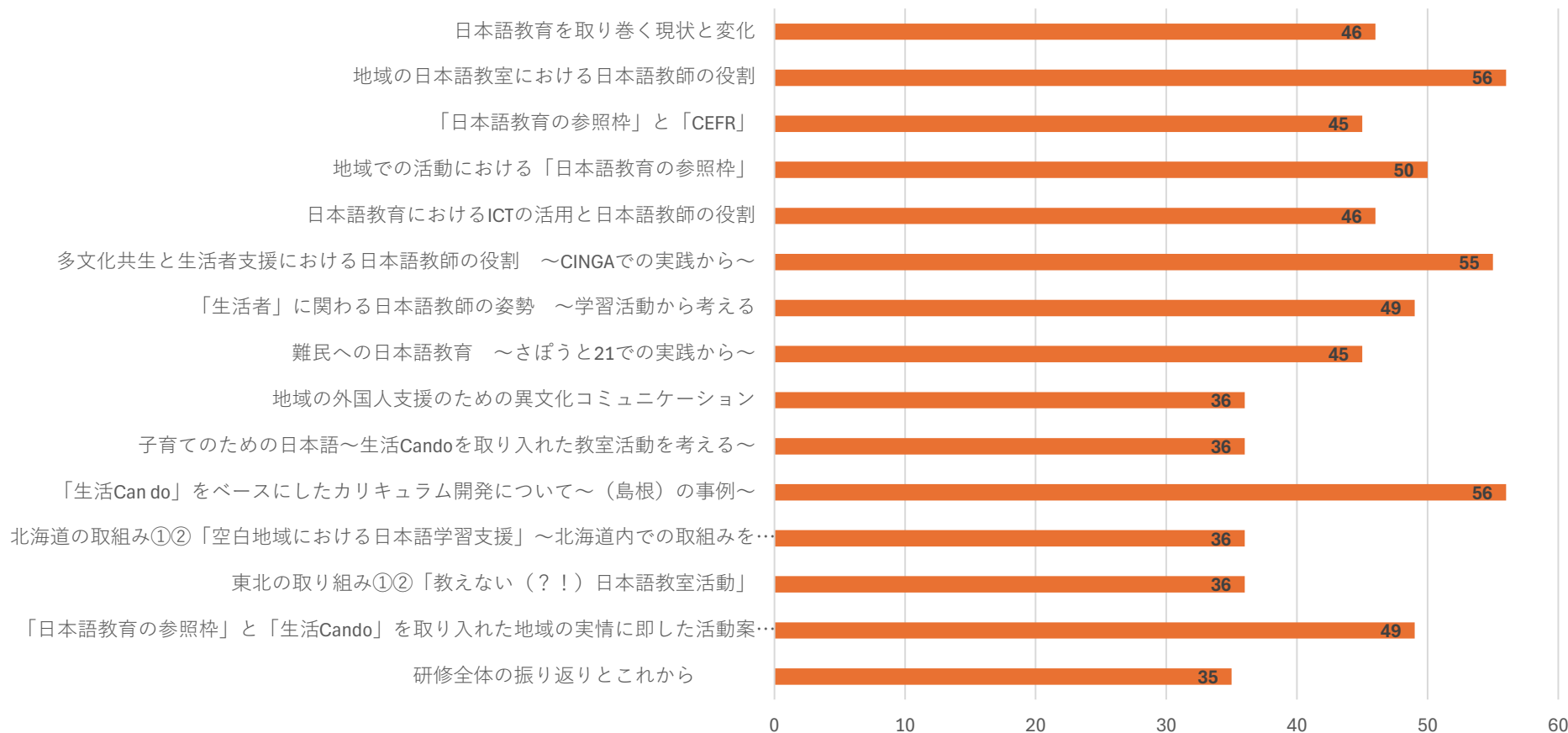
81 件の回答



■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果②

「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修
どの研修内容が役に立ちましたか（80人中の回答人数）

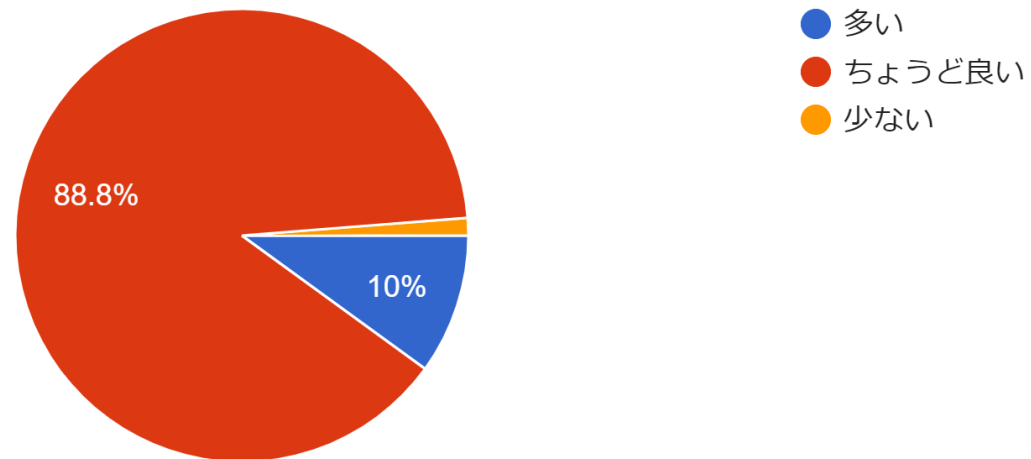


■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果③

課題の量はいかがでしたか（3回）

80 件の回答



■ 受講生からの評価

研修の自己評価について

★【研修前】と【研修終了後】自分自身のことを客観的に見てみようシートの記入
 ★シートは日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力を客観的に
 自己評価をする

日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力

表 2

21

	知識	技能	態度
日本語教師【初任】（生活者としての外国人）	【1 「生活者としての外国人に対する指導の前提となる知識」】 (1) 地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。 (2) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。 (3) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。 【2 日本語の教授に関する知識】 (4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。 (5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。 (6) 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するということを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。	【1 教育実践のための技能】 (1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。 (2) ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。 (3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。 (4) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を引き出すための教育実践を行うことができる。 【2 成長する日本語教師になるための技能】 (5) 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。 【3 社会とつながる力を育てる技能】 (6) 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者より良い関係を構築できるよう促すことができる。 (7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。	【1 言語教育者としての態度】 (1) 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確に捉え、その個性と学びに向き合おうとする。 【2 学習者に対する態度】 (2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。 (3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。 【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 (4) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。 (5) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワーメントとしての日本語教育を実践しようとする。

■ 受講生からの評価

日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力

表 2

知識	技能	態度
【1 「生活者としての外国人に対する指導の前提となる知識」】 ★(1) 地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。 ★(2) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。 ★(3) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。 【2 日本語の教授に関する知識】 ★(4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。 ★(5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。 ★(6) 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するというを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。	【1 教育実践のための技能】 ★(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。 (2) ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。 ★(3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。 ★(4) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を引き出すための教育実践を行うことができる。 【2 成長する日本語教師になるための技能】 ★(5) 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。 【3 社会とつながる力を育てる技能】 ★(6) 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者により良い関係を構築できるよう促すことができる。 ★(7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。	【1 言語教育者としての態度】 ★(1) 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確に捉え、その個性と学びに向き合おうとする。 【2 学習者に対する態度】 (2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。 (3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。 【3 文化的多様性・社会性に対する態度】 ★(4) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。 ★(5) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワメントとしての日本語教育を実践しようとする。

【研修終了後】自分自身のことを客観的に見てみようシートの結果、★印の項目に知識・技能・態度について向上が見られた。

■ 受講生からの評価

日本語教師【初任】研修修了アンケートから (受講生の主な感想)

- ・ 研修項目も多様で、様々な視点から生活者としての外国人への日本語教育活動について、学び、考えを深めることができた。なかなかオンタイムで研修に参加できる機会が限られていたが、動画視聴機能のおかげで全ての研修を受けることができ、自分のライフスタイルにあった形で無理なく学び続けることができ、大変ありがたかった。今回の研修をきっかけとして、これからも自分のテーマや目的意識をもち学びを継続していきたい。
- ・ 地域での日本語教室は単に言葉を学ぶだけでなく、外国の人と地域の文化や人々をつなぐ場所なのだと理解できました。また、日本語教育は「知識」を教えるだけでなく、それを使って人とコミュニケーションをとる、より良く生活するための「道具」として教えていくことが大事と思いました。各地域の様々な活動を具体的に知ることができたのも収穫でした。みなさんが様々な取り組みをしていることを知り、自分の世界が広がっていくように感じました。
- ・ どの研修も、とても良い学びとなり、修了した現在とても良い刺激となっております。以前学んだことがある内容でも、ある程度の経験を積んだ後聴くと、更なる気づきを得ることができました。また、ICTや著作権の知識も、持っていなければならぬのだと実感しました。そして、何より魅力的だったのが、各地区の取り組みです。同じ思いをもった方たちが試行錯誤しながらいろんな活動に挑戦している姿から、とても勇気をもらいました。Zoomで、日本各地の教室がつながったような感じでしょうか。本当に、充実した時間となりました。スローステップになるとは思いますが、必ず今回学んだことを地域に活かしていきたいと思います。Zoomは、本当にありがたい存在です。自宅で交通費を気にせず学べ、同じ志を持った人と出会えるチャンスは、コロナが残した唯一の優れものだと思います。
- ・ 日本語教師の資格を取得した時は、留学生向けの日本語学校で働くとか、地域活動で日本語を教えることくらいしか考えていませんでした。今回、受講させていただいたことで、日本語を教えるスキルが実に様々な場面で役に立つという大きな希望が持てました。

■ 受講生からの評価

その他の取り組みのアンケートから

【東海ブロック】

- ・今回はfinger boardの新しい使い方を知ることができ大変参考になりました。今は対面で使うしかできないのですが、今後はオンラインでの活用も視野に入れ、オンライン学習のノウハウをもっと学んでいきたいと思います。また、自宅での自学に役立てるような方法も考えたいと思っています。
- ・地域の日本語教室の活動の中で、今回学んだJamboard、Canva、finger boardを活用し、楽しい授業、わかりやすい授業をしていきたいと思います。また、日本語教育を勉強していない日本人ボランティアスタッフが外国人支援ができるように、ICTを活用して何ができるか考えていきたいと思っています。

【中国ブロック】

生活者としての外国人をどう地域の輪にいれるかという話題に対し私たち大学生は地域のイベントに参加するでしただったが、他の参加者の方は自治会長を介すことで早くかつ信頼性の高いつながりを作ることができるとおっしゃっていました。私にとって自治会は親近感のあるものではなかったためアイデアが膨らみませんでした。自治会の重要性と存在の大きさを知ることができました。世代が違うからこそ感じることもできた嬉しい違いで新たな発見でした。今後、個人的な活動で地域実習生・企業・地域をむすぶプロジェクトを担当するのですが今回の学びを大いに活用したいと思っています。

アイデアを創出するというアイデア創出そのものをプログラムとしたことで、多様な参加者の集まりを形成できた新たな視点を感じることができた。

■ 成果と課題

事業評価について

【評価の項目】

①カリキュラムの構成

- ・研修内容は、研修の目標に合った内容であったか。(参加者のアンケート結果から)
- ・日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求める資質・能力の内容に合っていたか
- ・講師に研修プログラムの目標、参加者の属性等が伝えれていたか
- ・講師間で研修の内容のダブリが無いように調整できたか

②運営・実施の体制

○広報について

- ・研修実施についての広報活動を適切だったか
- ・広報活動の時期, 方法媒体等が適切だったか
 - ・チラシの内容など、受講者に伝わったか
- ・目標人数は達成できたか

■ 成果と課題

事業評価について

○研修のZOOMについて

- ・時間通りに開始できたか
- ・ブレイクルームは課題を全員が把握し、活発な話し合いが行われたか
- ・全員が問題なく参加できていたか。できなかった人のフォローはできたか

○研修参加について

- ・受講者に研修の情報、ZOOMの操作、情報、課題の内容等もれなく伝えられたか
- ・研修担当講師に受講者の情報を適切に伝えることができたか
- ・受講者の出席状況、課題の提出状況等、研修担当者間での共有ができていたか

③受講生の修了状況

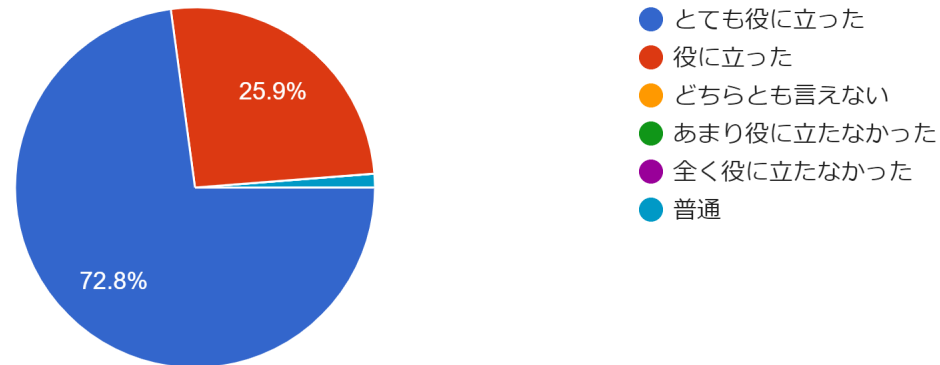
- ・受講生の修了人数について
- ・修了できなかった参加者へのフォローは適切だったか
- ・研修課題の内容と評価基準は適切であったか
- ・修了要件の基準は妥当であったか

■ 成果と課題

成果と課題について

長い研修、お疲れさまでした。17回の研修を受講していかがでしょうか。

81 件の回答



【成果と課題】

①のカリキュラムの構成についての成果

- ・アンケート結果から、研修内容についての満足度は高かった。
- ・日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求められる資質・能力についての研修前、研修後に実施した「自分自身のことを客観的に見てみようシート」の結果から、「知識・技能・態度」について改善が見られた。

①のカリキュラムの構成についての課題

- ・長期間にわたる土曜日の午前中に時間を作るのが、難しかったとの意見があった。
今後、受講生がリアルタイムで受けやすい時間を設定するため、事前に

■ 成果と課題

【成果と課題】

②運営・実施の体制の成果

○広報について

- ・目標人数を100名としたが、95名の受講生であった。
- ・当校のネットワークで、幅広く広報活動は実施できた。全国からの申し込みがあった。

○オンライン研修について

- ・ZOOMで実施したが、受講案内にZOOMの操作について記載したので、受講生が操作に関してトラブルになることはなかった。
- ・ブレイクアウトルームで受講生同士の交流ができて良かった

②運営・実施の体制の課題

○広報について

- ・研修のスケジュールの調整に時間がかかり、募集時期が予定より遅くなってしまったので日程等は事前に決めてから、講師の調整をすべきである。

○オンライン研修について

- ・グループで話し合いを共有するためのツール(Googleスプレッドシート、パドレットなど)の使用に関して慣れていない方が、毎回記入等をする事になり、一部に負担がかかるとの声が寄せられた。今後、オリエンテーションの時間の中に「ツール」について、使い方について、レクチャの時間を取る必要がある。「ツール」の知識は日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求められる資質・能力の「知識」に含まれることであることを受講生が認識して研修に参加することを主催者側も伝える必要がある。

■ 成果と課題

【成果と課題】

③受講生の修了状況の成果

- ・修了要件を満たした受講生は95名中82名であった。
- ・受講生の管理を数名で実施し、常に複数の目で課題の提出や出席状況について管理していたのでフォローが必要な人には適切な案内ができた。
- ・提出期限を決めて、フォローが必要な方には段階的に案内ができて、課題の提出等も促すことができた。

③受講生の修了状況の課題

- ・修了を希望せず、録画の視聴のみを希望する方がいたので、その場合の対応のルールを決めていなかったため今回はそのままにしてしまったが、今後はこの研修の目的を申し込みの時に伝えて、修了を前提とした参加を促す必要がある。
- ・13名が修了できなかった理由を分析する必要がある。
- ・当校の実施した研修では、地域の事例の紹介を多く取り入れてきましたが、地域で活動をしていない日本語教師向けに、OJTなど、現場で実習できる体制づくりも今後の研修に取り入れることも必要に思う。

■ 成果と課題

評価委員会から

- 今年度の研修で「日本語教育の参照枠」「生活can do」を使用しての活動案作りを研修内で実施した。その時の「評価のしかた」について、評価委員会で取り上げて、評価委員からご意見を伺った。



【評価委員から】

- ・受講生にどんな学びを獲得して欲しいか、姿勢や態度を持って欲しいかを明確に示すと良い
- ・取り組む場所、視点、到達点も違うので、自己評価させるのが良いのでは
- ・講師側は簡単なフィードバックをして評価にかえる
- ・平成25年「生活者としての外国人に対する日本語教育」における日本語能力評価・指導力評価の5点セットを見返す機会
- ・生活者に対する日本語教育というフィールドにおいての学習者の評価について、成長する教師に対しての評価に関する講義が項目としてあると良いのでは
- ・コースデザインに対する評価の時「学習者のニーズをどのくらい考慮に入れているか」「活動ベースのコースになっているか」をみること。
- ・自己評価も大切
- ・就労者研修の場合コースデザイン→実際に外国人相手に実習(自己評価／他己評価)→リベンジ提出。自己評価で修正案が出せるか、というところを実施してきた。参考にまでお伝えしたい。